

## 過去の出題傾向について確認しよう！

### 九大入試研究[日本史B]

#### ▶ 出題一覧表

2015年度より、文学部にのみ、入試科目に地理歴史が加わった。2015年度・2016年度九大本試の出題内容について、大問ごとに概観してみた。

年度	問題番号	出題内容	講評
2016	[1]	『宋書』倭国伝・古代の仏教 (史料:『宋書』)	6世紀における、ヤマト政権の列島支配(50字)、10世紀以降に浄土教が流行した理由(60字)、が論述問題。論述問題としては基本である。
	[2]	大内氏と室町時代の対外関係 (史料:『善隣国宝記』)	日明通交の実態(80字)、撰銭令の目的(50字)、が論述問題。前者は読解を必要とする問題だったが、それほど難しい史料ではなかった。後者は「目的」だけで50字を埋めるのは難しい。
	[3]	近世の洋学 (史料:『蘭学事始』)	杉田玄白らが江戸でオランダ語を学ぶことができた理由(50字)、各藩の藩士らが1842年頃に洋学者として登場した理由(60字)、が論述問題。後者はやや要求がくみ取りにくい問題。
	[4]	九州大学の歩み (史料:『九州大学文学部90年の歩み』)	天皇機関説(60字)、1949年前後における経済政策の内容とその影響(60字)、が論述問題。論述問題以外は特筆すべき設問はみられなかったが、問1アと問6は難問。
2015	[1]	A 縄文時代・弥生時代の社会 B 律令国家による支配のしくみ	稲作伝来をうけて生じた社会の変化(30字)、律令制による人・土地の支配方式の実施が困難化した理由(40字)、が論述問題。論述問題としては基本である。
	[2]	鎌倉幕府の成立～滅亡 (史料:御成敗式目・永仁の徳政令)	御成敗式目の武家の法令としての特色(50字)、永仁の徳政令に年紀法を適用するか否かの判断の意図(60字)、が論述問題。後者はやや題意がとりにくい。
	[3]	江戸時代のある藩(平戸藩) 【藩主・生年・没年・出生地・死没地・隠居地の一覧表と文章】 (史料:甲子夜話)	田沼の接客が無礼と批判された理由(50字)、江戸時代の藩主が江戸を中心とした生活を送ることになった理由(90字)、が論述問題。前者は日本史の知識が不要な要約問題のように思えるかもしれないが、田沼政権の特徴などを把握しているか否かで難易度は異なってくる。
	[4]	A 超然主義の演説(史料) B 日本国憲法の公布(史料:日本国憲法公布記念式典の勅語)	伊藤博文が立憲政友会の総裁となり、自ら政党の党首として内閣を率いた理由(60字)、「憲政の常道」の特徴(50字)、が論述問題。

#### ▶ 分析と対策

地歴は2015年度から受験科目に加わったため、傾向といったものを指摘することはできないが、2015年度・2016年度の特徴を指摘すると、(a)大問は4問で構成され(各25点)、大問1問ごとに論述問題が2題出題されていること、(b)用語を問う記述問題と論述問題で構成されること、(c)論述問題は30字～90字まで出題されていること、(d)表や史料を用いた問題が出題されていること、となるだろう。

対策としては、**論述対策**に重点をおきたい。論述問題への取り組みは、他の記述問題への対策にもつながるからである。どの大学であっても、論述問題で大きな差がつくことはないが、九大の記述問題は基本的知識を問うものが多く、多くの受験生が失点しないことが予想されるため、論述の出来が合否を決める傾向が顕著だといっていいたいだろう。付録② **論述問題の考え方**に記してあることを実行してほしい。

**史料問題**については、まずは教科書に記載されている基本史料を確実に把握しておく必要がある。基本史料に慣れておくことは、初見史料を読解する前提条件となるからである。そのうえで過去問・模試・他の大学の問題に多く取り組み、脚注や設問文、史料中から重要なキーワードを見つけるトレーニングをくりかえしてほしい。

史料問題の出題のされ方、論述問題の字数・水準、問題形式の類似性といった点で、国公立大学の北海道大学・首都大学東京の過去問に取り組むことを勧めたい。